

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所前に決めた理念を掲げ、取り組んでいる。定期的なユニット会議で確認をしている。	「皆さんの思いにまごころをもって日々ふれあい、安心して穏やかな生活づくりを目指します」と、玄関に事業所理念を掲げ、その実行のために、『一人ひとりとのふれあいを大切に、皆さんが安心して、ゆったりと楽しい日々を過ごしていただけるホームをつくる』を大切に、管理者と職員は共有、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新興住宅街の中に位置する事業所であり、散歩中の方とも声を掛け合えている。自治会の集まりや回覧板など、お仲間に入れてもらっている。運営推進会議にも毎回住民の方に参加して頂いている。	新興住宅地の中にあつて、地域住民は散歩の時や、町内の草刈り等に、職員と利用者がともに参加すること等で、好意をもって挨拶を交わす関係になっている。町内の防災訓練にもこれから積極的に働きかけをしていきたいと計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の集会、運営推進会議、区で行われる介護者の集い等の機会に問い合わせや質問などがあれば説明、お話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族やご近所、近隣事業所など様々な方々から頂いた意見を傾聴し、後に活かしている。	年6回定期的に実施され構成メンバーは利用者家族、民生委員、町内会役員、近隣住民同法人役員地域包括支援センター担当者であり、事業所の取組状況等が報告され、いただいた意見等をサービスに反映させるよう心掛けています。今後も改善課題等を明確にし地域の理解と支援を得られるような機会作りの場となるよう考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には連絡を取り合い、協力できる体制を築くよう取り組んでいる。包括支援センターとも密に連絡を取り合い、関係作りを行っている。	何かあれば、地域包括支援センターに相談に乗ってもらって良好な関係を保持している。区役所の担当者とも今後は少しずつ、良い関係の構築に向けて頑張っていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、出入り口や玄関の施錠はせず、入居者に閉塞感を与えないように努めている。離設等の回避のために玄関に赤外線センサーを設置している。職員研修も計画的に行い、実践に繋げている。	日中玄関の施錠はしていないが、センサーを設置している。センサーが鳴ると職員が追いかけて、見守りを実施していて、制止はしないようにしている。個別ケアのため職員がホール内に無人になった折、離設があったが、幸い数分のうちに近隣の方が発見してくれたことがあり、その後は、無人の短時間だけホール出入り口に施錠し、離設防止をしている。	
7	5-2	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、法人全体で虐待防止に取り組んでいる。また、職員のストレスにも注意し、居心地の良い職場環境となるように努めている。	事業所では虐待が見過ごされることがないように職員間でも注意を促しながら、職員のストレスにも配慮された職場環境の整備に努めている。法人には虐待防止のためのマニュアルがあり、研修等で学ぶ機会を設けて虐待防止に取り組んでいるが、しかしながら職員全員の参加がなされていない現状も見受けられた。6月に変わった管理者は、これからの取り組みを考えている。	現在、虐待防止のためのフローチャート作成や具体的な職員のストレス対応等、虐待防止の徹底について、話し合いを始めようとしている。引き続き、見過ごされることがないように虐待防止に努めていかれることが期待される。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画に位置付け、必要時は制度を活用できるように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改訂の際などには時間に余裕を持って納得頂けるまで十分な説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会も多いため、普段から些細なことでも相談しやすい関係作りに努めている。また、運営推進会議でも活発な意見交換ができ、都度運営に反映させている。	面会時等に、家族に声をかけ、どんな些細なことでも言ってもらえるように直接お願いしたり、伝えたいことは、案内や、お便りで通知している現状であるが、今後も自由に意見が言えるような環境を職員全員で考えており、関係作りの構築とともにサービス反映に努めようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の本部会議や週間報告にて、代表者に職員の意見などを伝える機会がある。職員から取締役への直通ホットラインもある。職員からは日々の朝礼や会議で直接意見などを聞き、吸い上げるようにしている。	管理者と職員の関係が良好で、職員からの意見はどんどん上がってきている。管理者と計画作成者は随時相談しながら、できる範囲での意見は取り上げるようにしている。月1回の本部会議に管理者が、事業所内では解決できないことをお願いして聞き入れてもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員に資格取得を奨励し、資格取得に係る講習受講のため資格取得者には祝い金や資格手当を支給している。また、夏期休暇(3日)冬期休暇(3日)の支給や勤続年数に応じリフレッシュ休暇制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に積極的に参加できるように取り組んでいる。外部の研修参加へは研修費の助成を行う等推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム部会、秋葉区のケアマネ部会などに参加、ネットワーク作りに取り組んでおり、職員交流も計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何でも話せる信頼関係を構築すべく、話しをさえぎることなく最後まで話しを聞くように留意している。困っていること、要望があればまずきつちりと聞いた上で検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記に準ずる。その上で家族の想いにも留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、自施設のサービスだけでなく、他サービスも含めて、本人、家族にとってベストな判断を公平に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事まで取り上げてしまわぬよう、入居者の生活を支えるという事を重視し、しっかり見極め、その方に応じた支援方法を行うように努めている。		
19	7-2	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回ホームでの様子を伝えるお便りを発行している。通院介助や買い物等できる範囲で家族支援をお願いしている。	面会等で、日ごろの様子を伝えたり、月1回お便りを発行する等で、家族との信頼関係を築くようにしている。定期受診は基本、家族にお願いしているが、都合が悪いときや急な受診時には職員が対応することになっているが現実にはあまりない。今後家族との関係をより深めるために、担当職員も面会、その他の時にも対応してもらうことにしたいと計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一緒に外出をしたり、親族や友人、知人が尋ねてきた際の入居者を含めたおもてなし等で、ゆっくりと過ごせるような環境作りをしている。	以前住んでいた地域の仲良しが探し当てて面会に来てくれる等、懐かしい再会があったり、友人知人の訪問に対し、職員がともに喜び、もてなす等、できるだけゆっくりと楽しんでもらうよう配慮している。出身地の祭りに参加したり尋ねていくこともある。利用者の行きたい場所には、できるだけ願いをかなえてあげたいと思っているが、まだ十分ではないと、これからの課題としてとらえている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活がスムーズに行えるよう、職員は間に入り、入居者の関係が維持できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も要望があれば相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない普段の会話や言動、仕草などの中からヒントを見つけ、思いに添った支援ができるよう心がけている。	日常のさりげない会話の中から、食事のことや人間関係等のヒントを得て、その内容はセンター方式に記入し、共有しながら職員一人ひとりが情報を積み重ねている。	
24	9-2	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴。環境、趣味格好や以前利用したサービス経過の把握に努めている。	生活歴に関しては、ケアマネ情報のほかに、入居時に家族にお願いして、情報を記入してもらっている。その他、兄弟親戚等の面会時にお聞きしたりする等、できるだけ多くの情報が把握できるように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で出来ること、出来ないこと、お体の状態の把握ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画策定前にはチームで担当者会議を行い、情報の収集をして介護計画を行っている。モニタリングを月1回以上行っている。	担当職員、計画作成者、管理者その他、その日に参加可能職員で話し合い、モニタリングを行っている。今後は、より情報の収集ができるよう、薬剤師も担当者会議に参加してもらおうと考え検討している。	現在、利用者本人、家族の参加は行われてない中、日頃の生活の中での聞き取りや会話からくみ取り、ケアに繋げている現状である。今後は調整しながらも、できるだけ本人家族の参加を得て、介護計画が、それぞれの意見や願いに反映できるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を日誌、ケース記録に記入している。記録の閲覧とともに申し送りを行い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれに合ったサービスを提供していくためご利用者の様子やご家族からの情報を活かして支援するようにしている。心療内科、皮膚科、歯科往診や訪問理美容等も取り入れ、ご家族の状況に合わせた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の山の手コミュニティや、地域住民にそうめん流しの道具作りや、門松作り等、様々なイベントに協力を頂き、共に行う事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	受診時は現在の状態やホームから の相談など医療連携手帳を活用して いる。	9名中8名が「かかりつけ医師から往診を受け ており、1名は家族が今までの医院に受診を 支援している。受診時は「地域医療連携手 帳」に記入し、「介護情報提供書」が医師より FAXで送られてくる。医師との支援体制は24 時間対応で、看護師週1回、薬に関する相談 も薬剤師の事業所への訪問で家族の安心に 繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	介護と看護の連携票を使い、情報を 共有している。24時間のホットライン もあり、いつでも助言、指示をもらえ る。必要があれば地域連携手帳で 医師とのやりとりを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、又、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努 めている。あるいは、そうした場合に備えて 病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員と連携を取り、スムーズ な支援が出来るように努めている。 入院時には定期的にお見舞いに行 き、安心してもらえるよう配慮してい る。病院主催の研修等にも積極的に 参加し、顔を覚えてもらえるように努 めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合いを 行い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる	入居前に本人、家族には事業所とし て「重度化対応、終末期ケア対応指 針」の説明を行っている。日々の様 子や心身の状態の変化は家族に密 に伝えたり、主治医、看護師、かかり つけ薬局とも協力体制を取ってい る。	現在、利用者は落ち着いているので、対応し た事例はないが、会社を挙げて「みとりの受 け入れへの体制」を整えている。事業所 では、入所時重度化した場合の終末期の在り 方について説明を丁寧に行い、医療関係者 との協力体制づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の講習会や消防署での救急講習を順次受けている。職員も変わっているので今後も定期的な講習を行わなければならない。急変時の連絡体制を定期的に確認している。	AED研修は設置時全員受けているが、2～3年たち、時間の経過があるので、継続的に消防署で再受講している。「こんな時大至急救急車」のマニュアルを作成し、昨年の課題でもある急変や事故発生について整備し、わかりやすいフローチャートも作成している。急変に関する研修計画をたて、研修も行われている。今後も外部研修参加者による伝達講習実施や、研修報告書等、記録の整備とともに、時間等の工夫することで実践力を身に付けていかれることが期待される。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、災害対策についての研修を行っている。事業所内では年2回避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も実施している。	火災、地震等々災害に対するマニュアルがあり、ハザードマップも把握している。火災訓練は日中・夜間想定での訓練を行っている。同法人の施設や近くの施設との連携等、管理者は今後の課題に向けた協力体制づくりへ取り組みを始めた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、否定するような言葉かけがないように一人ひとりが気をつけている。気になるような状況があった時にはお互いに注意できるよう心がけている。	その人らしい暮らし、利用者の誇りやプライバシーを守るケアが、場面場面で大切に展開されている。職員全員が言葉かけに注意し、不適切と思われる対応が見受けられたら、個別に注意するなど、利用者への丁寧な対応が心掛けられている。今後も研修やマニュアル等を整備し、尊重とプライバシー確保に関する様々な取り組みの充実が期待される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で自己決定できる場を作る様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、決して無理強いせず、時間や職員側の都合や決まりを優先しないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を第1に、自分で出来ない方は一緒に服を選んでもらっている。化粧品などはご家族にも協力してもらっている。訪問理美容でパーマや白髪染めも可能。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、野菜を切る、皮を剥く、和える、盛り付け、配膳等々、一緒に食事の準備を行なっている。下膳や皿洗いなども協力して行っている。	利用者は職員とともに、買いものや準備、後片付けなど一緒に行っている。全員の参加は難しい時もあるが、出来るだけ参加しやすいように声かけ協力し、献立も家庭的になるよう、食事が楽しみになるよう手作りを心掛けており、利用者にも好評である。管理者や職員は、利用者の持っている能力の発揮に繋がるような声かけに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方やその物に合わせた食事量、食事形態の工夫をしている。毎食時の食事量のチェックや水分摂取量のチェックは1日を通して行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせて毎食後の声かけ、誘導、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄ができるように時間で誘導したり、動作や仕草などで声かけを行っている。失禁のある方にはパットの用意の仕方やゴミ箱の用意などで羞恥心の配慮に努めている。	排泄支援は、なるべくトイレでの排泄ができるようにと誘導を行うことで、現在は、トイレでの排泄になっている。マニュアルもあり、誘導もさり気なく丁寧に行われており、トイレの中も配慮されていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に胚芽押麦を白米に混ぜ、植物繊維を多く摂取できる工夫をしている。又、水分摂取量のチェックを毎日行ったり散歩をしたり、薬剤ばかりに頼る事の無いように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面や職員配置の問題もあり、時間帯の制限はあるが、その範囲内で個々の希望やタイミングに合わせて入浴を行っている。	通常週2回の入浴として、午後から行っている。二重カーテン等の配慮で、直接中が見えないようしており、その利用者にあつた希望やタイミングでケアを行っている。また、変わり湯もあり、季節に応じた自然の植物を利用して楽しめるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由に過ごしてもらっている。但し、夜間の睡眠を気持ち良くできるよう、昼間の活動への参加の促しは欠かさず行い、本人の意思で参加出来るための工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬剤情報の把握に努め、変化などがあつた場合は申し送りを行い、全員が共有出来るように努めている。薬剤師にも常に相談でき、より安全な服薬支援ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や日々の生活の中での会話等からヒントを見つけ、楽しみや気分転換ができるように個別に合わせた働きかけを行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って外出の支援が出来るように努めており、散歩や買い物等はよく出掛けている。ご家族にも都合の良い時には気分転換と一緒にでかけたりしてもらえるように働きかけている。	その日の希望にそって、近所の散歩は2～3人で、建物の周辺や敷地の花や野菜見回りなどが行われている。また、食材の買い出しや行事での外出、特に外食は、楽しみにしておられる方が多く、支払いも自分で行っている。出身地域のお祭りや季節の花見など、利用者は家族や職員の支援を得て出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっており、必要な日用品、衣類などは外出時自由に買い物が出来るように支援している。管理能力に応じてお金を所持してもらい、日用品などの購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があるときには電話をかけたり、手紙の投函など支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花々を飾ったり装飾をしている。リビングから見える庭にはミニ菜園があり、水やりを日課とし、四季折々に収穫を楽しむことができる。共用スペースは家らしい雰囲気や季節感を大切に居心地よく過ごせるよう工夫している。	小高い山の緑や周りの住宅も見え、採光や天井の高さもホーム内を明るくしている。食堂に続く畳のコーナーも一部ソファを置いて座りやすい状態にしており、居心地良い空間で、利用者はゆったりとすごしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースには食卓椅子の他、ソファや畳みコーナーがあり思い思いの場所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具を自由に持参してもらい、自分の部屋として自由に使ってもらっている。	ベットやチェストなど、なじみの家具を持ち込み暮らしやすいように配置している。居室の中も、衣類の収納や、整理などそれぞれの形で行われ、家族との絆やホームでの生活の様子が表現され、一人ひとり違う個別の生活の様子が覗えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりもあり安全に過ごせる設備である。一緒に洗濯や掃除、食事などの家事を行い、個々の出来る事を見極め、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		